

日中金融円卓会合 (概要と第13回会合)

シニア研究員 井上 哲也

株式会社野村総合研究所
金融デジタルビジネスリサーチ部

2022年8月

NRI

Share the Next Values!



1. 日中金融円卓会合の概要

日中金融円卓会合（Japan-China Financial Roundtable）

- ◆ 両国のマクロ経済に関する政策課題について意見を交換することで、その知見を共有する
- ◆ 両国の金融経済面のネットワーク強化を通じて、政策当局や実務家、研究者の交流を活発化する

会議の位置づけ

- 中国金融40人論壇（China Finance 40 Forum）と野村総合研究所との共催により、両国の政策課題に関する意見交換の場を設ける

取り上げるテーマ

- 両国の金融経済に関する重要な政策課題を柔軟に取り上げる
－ 短期だけでなく中長期的な視点からのテーマも取り上げる

会議の運営

- 会合は当面はリモート形式で開催する
－ 双方の専門家が講演を行い、参加者が自由討議する形
－ 議論は議事概要として事後的に公開する

参加者

- 日中双方で、講師に加え、政策当局や金融機関、調査機関等から専門家を招聘する

(参考) 中国金融40人論壇 (CF40) の概要

(1) 沿革・位置づけ

- ・2008年4月に北京に設立された非営利のシンクタンク
- 2011年7月には、金融の実務に近いテーマを扱う新金融研究院 (SFI) を上海に設立

(2) 目的

- ・金融経済に関する政策について調査研究を行い、成果を広く発信して議論に資するとともに、国内外の政策当局と意見交換を行う

(3) 組織運営・メンバー

- ・顧問 (政策当局の幹部 < 中国人民銀行の易総裁やIMFの朱副専務理事を含む > と有力な研究者) が活動全体のガバナンスを実施
- ・学術委員会がテーマの選定など、議論の方向性をコントロール
- ・政策当局 (人民銀行、国務院、銀行・保険監督会が中心) と研究者、国営銀行の幹部がメンバー

(4) 主な活動

- ・ラウンドテーブル (隔週で実施) : 金融経済に関するテーマに関するメンバーでの意見交換
- ・コンファレンス : 年次総会のほか、NRI、BrookingsやBruegalなどとの国際共催コンファレンスに加え、IMFや欧州委員会などの国際機関とも共催セミナーを開催
- ・出版 : 金融経済に関するメンバーの論考を定期刊行物や書籍として刊行

(5) 野村HDの加盟

- ・2020年4月、野村HDはCF40からの招聘を受け入れ、理事会メンバーに加盟 (日本企業では初、中国以外では13番目)
- ・諸会合には野村証券の飯山副社長が参加

(参考) 「日中金融円卓会合」の講師 (2021年度まで)

第1回	日本経済の長期停滞と政策対応	早稲田大 西村氏、慶応大 深尾氏、S&P 根本氏	DRC 魏氏、SAFE 管氏、中国人民大 瞿氏、北京師範大 鐘氏
第2回	中国の金融システム問題・日本のアベノミクス	日銀 福本氏、慶応大 深尾氏、野村資本研 関氏 キャノングローバル研 須田氏、NRI 神宮	DRC 魏氏、PBOC 金氏、孫氏、SAFE 管氏、 中国人民大 瞿氏
第3回	日本と中国の経済構造問題	日銀 木下氏、みずほ総研 高田氏、 野村資本研 関氏	DRC 魏氏、北京大 黄氏、安信証券 高氏
第4回	日本と中国の経済構造問題	スタンフォード大 青木氏、野村資本研 関氏	DRC 呉氏、社会科学院 余氏
第5回	対外直接投資の戦略と 「一帯一路」への意味合い	JETRO 前田氏、S&P 根本氏 野村資本研 関根氏	社会科学院 張氏
第6回	デフレと金融政策	慶応大 池尾氏、キャノングローバル研 須田氏 リコー経済社会研 神津氏	DRC 魏氏、社会科学院 余氏、CF40 管氏
	日本の構造調整と中国への教訓	立正大 吉川氏、日本総研 翁氏、一橋大 北村氏	安信証券 高氏、CF40 張氏
第7回	中小企業金融の活性化	日本動産鑑定 森氏、神戸大学 家森氏	北京大学 黄氏、国家外貨管理局 孫氏
第8回	貿易摩擦と金融危機防止	共立女子大 植田氏、アフラック 木下氏 日本国際問題研 津上氏	社会科学院 余氏、CF40 管氏、安信証券 高氏
第9回	貿易摩擦・高齢化と経済成長	青山学院大 白川氏、東京大 岡崎氏 経産省 柳瀬氏	社会科学院 余氏、蔡氏
第10回	新型コロナウイルスの経済への影響と対応策	青山学院大 白川氏、日銀 福本氏	社会科学院 余氏、PBOC 朱氏
第11回	中央銀行デジタル通貨の展望と課題	日銀 副島氏、フューチャー 山岡氏	CF40 謝氏、PBOC (非公表)
第12回	ポストコロナの成長戦略・グリーンファイナンス	学習院大 伊藤氏、岡三 高田氏、日銀 清水氏、 金融庁 岡田氏、	社会科学院 余氏、安信証券 高氏、PBOC 朱氏、 銀行間交易商協会 徐氏



2. 第13回会合（6/18日開催）

- 本年度の年次会合である第13回会合では、①コロナ感染、ウクライナ侵攻、物価上昇などによって国際環境が大きく変化する下での両国における金融経済の安定と、②主として中国を念頭に、経済構造の転換と金融の安定、の二つのテーマについて議論した。

テーマ1：日中の経済情勢と世界経済のガバナンス
司会：王海明 中国金融四十人論壇秘書長

14:30-14:45	リードコメント：余永定（中国社会科学院学部委員、上海浦山新金融發展基金会会長）
14:45-15:00	リードコメント：王信（中国人民銀行研究司長）
15:00-15:15	リードコメント：氷見野良三（前金融庁長官）
15:15-15:30	リードコメント：門間一夫（前日本銀行理事）＜収録＞
15:30-16:30	自由討議

テーマ2：経済成長モデルの転換と金融の安定
司会：井上哲也 野村総合研究所シニア研究員

16:40-16:55	リードコメント：肖鋼（前証券監督管理委員会主席）
16:55-17:10	リードコメント：高善文（安信証券首席エコノミスト）
17:10-17:25	リードコメント：木下信行（元日本銀行理事、証券取引等監視委員会事務局長）
17:25-17:40	リードコメント：福田慎一（東京大学教授）
17:40-18:30	自由討議

開催日時	・6月18日（土）14：30～18：30＜日本時間＞
開催方式	・リモート
使用言語	・日本語と中国語（同時通訳付き）
リードコメント	・各テーマで15分程度でお話いただく
討議	・日中双方の参加者が講演内容を踏まえて討議
ご参加者	・野村総研とCF40が、日中各々の政策当局、金融機関、研究機関等の専門家を招聘 －招待者のみの参加による非公開会合として開催
対外公表	・発言者の承認が得られたもののみを、日中両国で事後的に対外公表

(参考) 各テーマの問題意識と論点 <NRI作成> (その1)

テーマ	問題意識	論点
日中経済情勢と世界経済のガバナンス	<ul style="list-style-type: none">・世界の金融経済は、コロナ感染が収束しない中でウクライナ侵攻というショックに見舞われた。供給制約は深刻化し、多くの中央銀行による金融政策の急速な転換を招いている。・主要国による金融経済の制裁は前例のない規模と内容であり、サプライチェーンを通じた財やサービスの流れだけでなく、資金の流れや国際通貨の機能にも中長期的な影響をもたらす。・グローバル化の恩恵を受けてきた日本と中国は、国際環境の変化によって大きな影響を受ける。・両国が金融経済の安定を維持するためにどのような政策対応が必要か、国際的な金融経済の枠組みの再構築にどう貢献しうるかを考えることが有用である。	<ul style="list-style-type: none">・今回のエネルギーや食品等の供給制約やサプライチェーンの機能低下は、どのような特徴を有し、どの程度継続するか。・主要国による金融経済の制裁に伴う効果と副作用は各々どのようなものか。それらは将来に向けてどのような意味合いを有するか。・インフレ圧力や金融リスクの兆候に対し、中央銀行や金融財政当局はどのような対策を講ずるべきか。副作用を抑制しつつ最大の効果を得るには、ポリシーミックス等の面でどのような工夫が必要か。・将来の国際金融経済の枠組みが備えるべき特性はどのようなものか。それが頑健で持続可能であるには、ガバナンスや多国間の協力などの面でどのような対応が必要か。

(参考) 各テーマの問題意識と論点 < NRIの提案 > (その2)

テーマ	問題意識	論点
経済成長モデルの転換と金融の安定	<ul style="list-style-type: none">・中国では、金融安定を目指して、不良債権処理が推進されてきた。今後は不動産市場の正常化とともに、不動産に過度に依存しない新たな成長モデルに向けた金融の貢献が求められる。・日本でも、コロナで影響を受けた企業の破綻を防ぐため、様々な支援が行われた。今後は中小企業を中心とする債務の正常化とともに、経済成長を回復するための金融の貢献が求められる。・日本の経験は、金融安定を回復しても金融仲介機能の回復に時間を要する結果、経済成長が停滞するリスクがある点を示唆している。・両国の違いを意識しつつ、金融仲介機能回復に向けた対応を考えることは、新たな成長のために金融が役割を発揮する上で有用である。	<ul style="list-style-type: none">・不動産リスクが顕現化した後に金融仲介機能の低下が生ずるのはなぜか。その理由は、金融の不安定化による不動産市場への影響と、不良債権の処理等に伴う副作用の二つの観点からどう整理されるか。・金融安定の維持と金融仲介の回復の相対的な重要性を、局面の推移に即してどう判断し、金融当局や金融機関、金融市場は各々どのような対応を講ずるべきか。・新たな成長モデルの下で金融が期待される役割を発揮するために、金融当局は他の経済政策（財政健全化や格差是正、資産運用の活性化等）とどう連携すべきか。

NRI

未来創発

*Dream up
the future.*

野村総合研究所
Nomura Research Institute